


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 7 月 7 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	田島夏子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
東京都御蔵島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
御蔵島周辺に生息するミナミハンドウイルカの個体識別調査及びペア遊泳行動の観察
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 6 月 10 日 ~ 平成 26 年 6 月 23 日 (13 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
御蔵島観光協会 小木万布
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本渡航の目的は、1994 年から御蔵島で行われている御蔵島周辺に生息するミナミハンドウイルカの個体識別調査、およびペア遊泳行動の観察を行うことである。調査は、商業イルカウォッチング船に同乗させていただき、計 6 回の出航を行った。調査は、イルカ発見に伴い、入水し、イルカの群れを水中ビデオにて撮影した。撮影の様子は、写真 1 の様である。</p> <p>調査チームとしては、報告者の滞在期間中に、計 20 回出航することができた。各出航において観察される頭数、行動状態は異なるが今回の調査では一回の入水観察時に遭遇する群れの個体数が多く、観察者の周りをゆっくりと泳ぐことが多かったため、個体識別しやすい映像を撮影することができた。</p> <p>出航しない場合は、陸上で撮影した映像の解析を行った。撮影した映像をパソコン上で再生し、映像に映っている個体のヒレや体表面の傷やカケなどの自然標識から、調査開始時から御蔵島観光協会に蓄積されている各個体の特徴のデータと照らし合わせ、個体識別作業を行った。荒天時は調査に出ることができないため、滞在期間中に撮影したほぼ全ての映像記録を解析することができた。</p> <p>映像記録では、今年生まれの新生児 10 個体を撮影することができた。また、滞在期間中に新たに 1 頭の新生児とその母親を確認した。今後も親子の同定と新生児の個体識別を行っていく予定である。</p> <p>また、各個体の父子関係、血縁関係を分析するために、糞サンプル採取を行った。水中観察中に排フンが見られた場合は、その個体を撮影又は目視で個体識別を行い、糞を採取しエタノール処理を行った。調査期間中に採取した糞サンプルは 10 サンプルであった。</p> <p>今後は、さらに多くの個体識別用の映像データを撮影していくと共に、各性・年齢段階から選んだフォーカル個体におけるペアスイム(写真 2)の有無の記録も行う予定である。</p> <p>今回の調査では、コドモを連れていない高齢メス同士がペアスイムしている場合や、オトナオス同士、当歳児連れのメス同士がペアスイムしている例も観察することができた。同年代の個体同士でも、ペアスイムを良く行うペアとあまり行わないペアがあるか等、今後分析を進めていく予定である。</p>

写真 1 水中ビデオ撮影の様子 (撮影：長尾ゆり)

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真2 群れ遊泳中のペアスイム個体（御蔵イルカ調査チーム facebook より）

6. その他（特記事項など）

ウォッチング船に快く乗せてくださった船頭、ガイドの皆様に深く感謝いたします。調査への激励、協力をいただいた御蔵島の皆様にも心からお礼申し上げます。